

「愛するまち」を、あなたとつくる。



私たちDIAMOND CITYは、
ショッピングセンター(SC)ディベロッパーのパイオニアとして、
“「愛するまち」を、あなたとつくる。”というビジョンのもと、
地域の皆さま、すべてのお客さまに愛されるSCの創造を通じ
地域社会の発展と人々の生活文化の向上に貢献してまいります。



商業専門ディベロッパーのパイオニアとしての誇りと責任

ダイヤモンドシティの誕生は1969年(昭和44年)。まだ「ショッピングセンター」という言葉そのものが知られていなかった時代に、“日本初の商業専門ディベロッパー”として創業いたしました。以来、「開発」「管理」「運営」という一貫したビジネス体制によって、常に新鮮で、お客さまにとって魅力的なSCの創造をめざして、日々努力を重ねてまいりました。その活動の根本には、商業専門ディベロッパーのパイオニアとしての誇りと責任において、“単に売場としての商業施設にとどまらず、生活文化を創造しながら地域に貢献する”という創業以来の志があります。

ダイヤモンドシティのCSR活動は経営活動そのもの

SC事業を展開しているダイヤモンドシティにとって、CSR意識の浸透なくして企業の持続的発展はありません。SCの開発・管理・運営は、準公共事業的な側面を多分に持つ、地域密着型ビジネスであり、その業務を遂行する上でCSR活動が必要であると認識しているからです。こうした自覚は、ダイヤモンドシティの「経営理念」「行動規範」「環境方針」はもとより、“愛するまちを、あなたとつくる。”という「ブランド・ビジョン」や、ステークホルダーの皆さまに提供する“ひとつ上。ひとつ先。”というテーマのブランド・プロミス等として明文化されており、日常業務の指針すべてがCSR活動に基づいたものとなっております。

新しい時代の「まちづくり」—— 地域と一体となったコミュニティの創造

CSR意識を経営活動の根底に据えて、地域に貢献できるSCをめざすこと。これが私たちダイヤモンドシティの使命です。新たな「雇用」の場をつくり出しつつ、地域と一体となって、地域の皆さまに心から親しみを感じていただけるコミュニティへとさらに進化させていくこと。このような形での新しい時代の「まち」づくりこそが、ダイヤモンドシティが果たす“地域社会の発展と人々の生活文化の向上への貢献”と考え、さまざまな取り組みを行ってまいります。



すべてのお客さまとともに

私たちDIAMOND CITYは、すべてのお客さまの豊かな暮らしを願い、
社是としてかける4つのキーワード、
Quality(ふだんの上質)、Hospitality(実践するおもてなし)、
Community(コミュニティとしての機能)、Information(情報発信力の充実)
の実現を念頭に“ひとつ上、ひとつ先の「満足」”を提供いたします。





心の交い合う「満足」を実現する4つのキーワード

Qualityとは、お客さまの生活や感性に心地よく寄り添う“ふだんの上質”を基本に、満足度の高い商品・サービスの提供に努めることです。Hospitalityとは、すべての方にとって“安全・安心・快適”なショッピングを、空間設計から各種サービスにいたるまで、おもてなしの心をもって実現することです。Communityとは、地域の拠点としての機能を充実させ、さまざまな角度から地域社会に貢献すること。そして、Informationとは時代のニーズをいち早く察知し、魅力ある店舗と情報を発信し、生活感度にフィットする「新しい発見」を提供し続けることです。

真のHospitalityは、皆さまの立場から

特にHospitalityの面では、すべてのお客さまにとってSCそのものが快適で使いやすくなければならないと考え、ユニバーサルデザイン(UD)の導入に積極的に取り組んでまいりました。2005年10月、熊本県にオープンした「ダイヤモンドシティ・クリア」に、商業施設では日本初となる本格的なUDの導入を果たしています。導入にあたっては健常者の方はもちろん、お体に障害をお持ちの方、ご高齢の方、お子さま、ご妊婦の方など、あらゆる方々にご参画いただきました。この取り組みは、その後の新規SCのUDにも反映されています。「多くのお客さまの声に謙虚に耳をかたむけ、真摯に応えていくこと」。地域の皆さまに愛される新時代のSCづくりには、この姿勢が何より大切だと自覚を新たにいたしました。

すべてのステークホルダーの声でダイヤモンドシティのUDは進化し続けます

2006年11月オープンの「ダイヤモンドシティ・ミュウ」(東京都)、「ダイヤモンドシティ・リーファ」(大阪府)、2007年2月にオープンした「ダイヤモンドシティ・エアリ」(宮城県)では、「ダイヤモンドシティ・クリア」からの継続的な改善活動、UDに関する定期的なアンケートやお客さまの声を反映するとともに、それまでに蓄積されたダイヤモンドシティのノウハウを活かし、さらに進化したUDを導入しました。2007年3月、「ダイヤモンドシティ・リーファ」が『CASBEE大阪OF THE YEAR 2006』を受賞したことは、Hospitality(実践するおもてなし)の面で、お客さまに“ひとつ上、ひとつ先の「満足」”の提供をめざしてきたダイヤモンドシティにとって、何よりの喜びでした。ダイヤモンドシティのUDは、ハード面だけにとどまらず、お客さまへのサービス等ソフト面を含め、より進化したUDのモデルづくりをめざしています。



地域社会とともに

地域において「愛するまち」を、あなたとつくる。”というビジョンは、単なる商業施設の枠を超え、地域の一員として皆さまとふれ合うことを意味します。地域の行政とお客さま、テナントと地域住民の方々も含む従業員とそこご家族、そのすべての方と、DIAMOND CITYが手を取り合って取り組み、地域社会の発展につながるコミュニティづくりをめざしてまいります。





まず、その地域にふさわしいコンセプトを発見することから

ダイヤモンドシティが新規のSC開発を積極的に進める際の基本理念は、工場跡地や遊休地といった土地の再開発により地域社会の豊かさを高めていくことです。SCの開発と地域社会が豊かになることには大変密接な関係があるとダイヤモンドシティは考えており、SCの開発にあたっては、地域自治体や関係各位との協力のもとに、地域にふさわしいコンセプトをそなえたSC開発を進めています。

SCの未来を創る地元行政との強い絆

例えば、2006年11月にオープンした「ダイヤモンドシティ・ミュウ」（東京都武蔵村山市）は、日産自動車工場跡地区内に建設されました。これは「村山工場跡地北地区計画」における基本方針に基づく事業であり、「賑わい創出の起点となり、地域活力向上の中核となる商業機能の導入」という考えかたのもとで地元武蔵村山市と協力して開発を進めてまいりました。また、2007年2月にオープンした宮城県名取市の「ダイヤモンドシティ・エアリ」は、仙台空港臨空都市として開発が進んでいる「杜せきのした地区」に位置しています。地元名取市との協力関係のもとで開発を進め、街の新たな中核施設をめざしています。また、仙台空港アクセス鉄道の「杜せきのした駅」とSC2階をデッキで直接結んでおり、その利便性の高さは、地元の皆さまに大変好評を得ています。

「SCを、コミュニティの中心に」が私たちの願い

このようなSC事業を展開するダイヤモンドシティにとって、地域社会とは、「地域は家であり、地域の方々は家族」と言い換えられるほどの強い絆で結びついた存在です。なぜならお客さまとしてご来店いただく多くの方が、地域及びその周辺の住民の方であり、かつ、SCで働いていただく従業員もまた、その多くが地域の方々だからです。ダイヤモンドシティでは、地域社会に対し経済的・社会的・環境的に大きな影響力を持つ事業活動を行っていることを深く自覚するとともに、コミュニティの中心として、情報発信基地として、SCがその地域になくてはならない存在となっていくことを大きな目標として「地域交流、地域貢献」を中心とした地域活動を展開しています。



事業パートナーとともに

“地域社会の発展とお客さまの生活文化の向上をめざす”をモットーに、DIAMOND CITYでは、同じ理念を掲げるテナントの皆さまとともに、お客さまが何度でも足を運びたいくなるような“居心地の良い理想的なSC空間”の創造をめざします。





魅力あるSC実現のため、欠かせない事業パートナーとの関係

お客さまへ商品やサービスを直接提供するテナントの方々や、施設運営上のさまざまなサポートをしていただく方は、ダイヤモンドシティにとって大切な事業パートナーです。特にテナントの方々は、集客力を左右するSC事業の核に他なりません。リーシング(テナント企業の誘致契約)にあたっては、商業専門ディベロッパーとして長年培ってきた小売業のセンスと知識、多彩なテナント企業とのネットワーク、さらには詳細なエリア・マーケティングデータを駆使して最良の事業パートナー誘致を行ってまいりました。こうした良好な関係を築くことで、魅力あるSCを実現しています。

テナントの成長こそが、SCの発展をもたらす

魅力あるSC実現のためには、個々のテナントのより一層の発展が必須事項と考えます。そのために、ダイヤモンドシティは大きく二つの方法をとっております。一つは固定的な賃料をいただくのではなく、売上げに応じた歩合賃料制の導入です。もう一つは個々のSC独自で蓄積していたテナントサポートのノウハウや事例を全社で共有できるようデータベース化し、この活用によりテナントの売上げ拡大に寄与するというコンサルティング色の強いサポート体制への移行です。

コミュニティ機能を高める、新たなリーシングノウハウの開発へ向けて

地域の拠点として、ダイヤモンドシティのSCには今、コミュニティ機能の充実が求められています。同時に、SC施設そのもののつくり方や、コンテンツとしてのテナントの考え方も変わってきています。“まち”の機能をどれだけ取り込めるか。それは、行政・金融の窓口であったり、カルチャースクールやヘルスケアといった物販以外のサービス機能をどう取り込んでいくかというテーマです。それとともに、有力地元企業とどれほどのつながりが築けるか。地元テナントの誘致や地産地消の推進につながるリーシングの開発も大きなテーマとなっています。ダイヤモンドシティでは、これらに対応する組織的な取り組みも始めており、より高いレベルでのリーシング戦略を進め、事業パートナーとの新しい関係づくりを進めてまいります。



ニック

